

第1部 食肉の流通

1 と畜場の状況(表1・2参照)

(1) 平成19年の全国のと畜場数は203場で、前年に比べ2場減少した。

と畜場の種類別と畜場数及び構成割合をみると、食肉卸売市場併設と畜場が27場で13.3%、食肉センターが74場で36.5%、その他が102場で50.2%となっている。

表1 種類別と畜場数の推移

単位 { と畜場数：場  
比率：%

区分		計	食肉卸売市場併設と畜場	食肉センター	その他
実数	平.17	204	27	72	105
	18	205	27	72	106
	19	203	27	74	102
構成比	平.17	100.0	13.2	35.3	51.5
	18	100.0	13.2	35.1	51.7
	19	100.0	13.3	36.5	50.2

(2) 豚及び成牛のと畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数をみると、豚を処理したと畜場数は173場、と畜頭数は1,626万8千頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、10万頭以上のと畜場数は65場、と畜頭数は1,281万1千頭でそれぞれ37.6%、78.7%を占めている。

また、成牛を処理したと畜場数は154場、と畜頭数は119万9千頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、1万頭以上のと畜場数は42場、と畜頭数は77万8千頭でそれぞれ27.3%、64.9%を占めている。

表2 と畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数の推移

単位 { と畜場数：場  
と畜頭数：千頭  
構成比：%

区分			豚					成牛				
			計	2万頭未満	2~5	5~10	10万頭以上	計	1,000頭未満	1,000~5,000	5,000~1万	1万頭以上
と畜場数	実数	平.17	172	47	30	30	65	159	32	39	46	42
		18	173	48	32	29	64	156	29	38	49	40
		19	173	50	28	30	65	154	32	36	44	42
と畜頭数	構成比	平.17	100.0	27.3	17.4	17.4	37.8	100.0	20.1	24.5	28.9	26.4
		18	100.0	27.7	18.5	16.8	37.0	100.0	18.6	24.4	31.4	25.6
		19	100.0	28.9	16.2	17.3	37.6	100.0	20.8	23.4	28.6	27.3
と畜場数	実数	平.17	16 243	213	1 046	2 187	12 797	1 221	5	104	325	787
		18	16 210	204	1 154	2 170	12 682	1 209	5	94	348	762
		19	16 268	228	1 000	2 229	12 811	1 199	9	97	315	778
と畜頭数	構成比	平.17	100.0	1.3	6.4	13.5	78.8	100.0	0.4	8.6	26.6	64.4
		18	100.0	1.3	7.1	13.4	78.2	100.0	0.4	7.8	28.8	63.0
		19	100.0	1.4	6.1	13.7	78.7	100.0	0.7	8.1	26.2	64.9

注：1 当該畜種の入場のあったと畜場のみを集計値である。

2 と畜頭数の構成比は、原数（Ⅱ統計表における表章単位。以下同じ）より算出している。

## 2 肉豚の概要

### (1) 豚の出荷状況(図1・2・3、表3参照)

ア 豚の出荷(と畜)頭数は1,626万8千頭で、平成17年以降2年連続で減少していたものの、19年は堅調な需要を背景に回復し前年に比べ0.4%(5万8千頭)増加した。

図1 豚出荷(と畜)頭数の推移

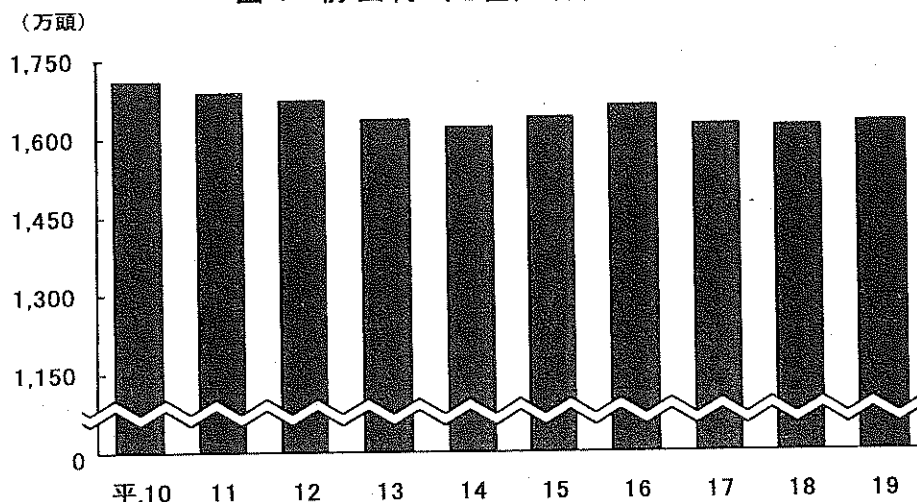


表3 豚出荷(と畜)頭数の推移

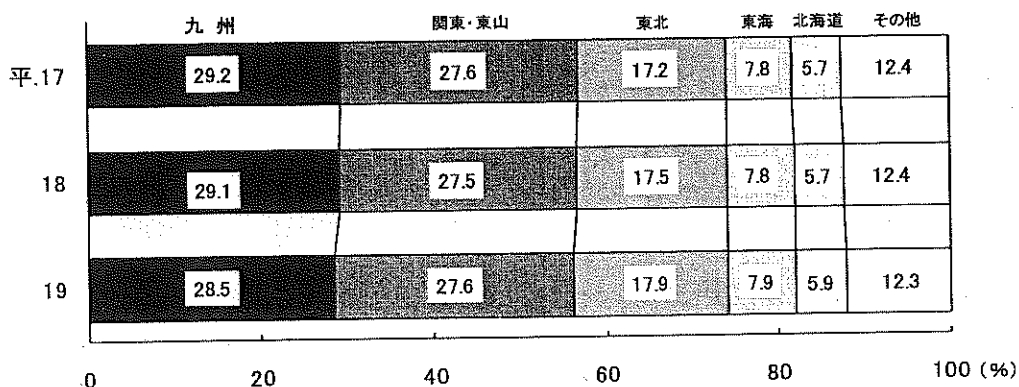
単位 { 実数: 千頭  
比率: %

年次	平.10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
実数	17,077	16,872	16,717	16,329	16,183	16,396	16,596	16,243	16,210	16,268
対前年比	100.3	98.8	99.1	97.7	99.1	101.3	101.2	97.9	99.8	100.4

注: 対前年比は、原数より算出している。

イ 豚の出荷頭数の全国農業地域別割合をみると、鹿児島、宮崎を中心とする九州が前年に比べ0.6ポイント減少し28.5%(462万9千頭)、茨城、群馬を中心とする関東・東山及び青森、岩手を中心とする東北が前年に比べそれぞれ0.1ポイント、0.4ポイント増加し27.6%(448万3千頭)、17.9%(291万4千頭)となっており、この3地域を合わせた割合は、全国の74%(1,202万5千頭)を占めている。

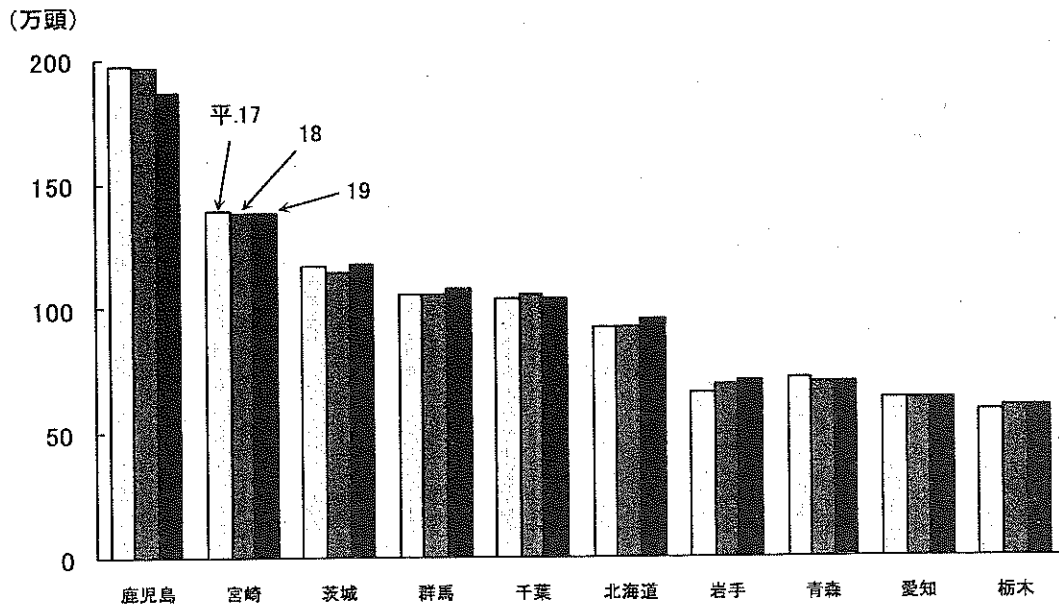
図2 豚出荷頭数の全国農業地域別割合の推移



ウ 豚の主産県の出荷頭数をみると、前年に比べ鹿児島、宮崎、千葉、愛知、栃木は減少したものの、茨城、群馬、北海道、岩手、青森は増加した。

また、この上位10県で全国出荷頭数の62.5%(1,017万4千頭)を占めている。

図3 豚出荷頭数の上位10県の推移



(2) 食肉卸売市場における豚肉の状況

ア 取引状況 (表4・5参照)

食肉卸売市場(中央卸売市場10、指定市場19)における豚肉の取引成立頭数は218万3千頭で、前年に比べ1.9%(4万頭)増加した。市場別では、中央卸売市場が91万8千頭で前年に比べ2.9%(2万6千頭)増加し、指定市場は126万5千頭で前年に比べ1.1%(1万4千頭)増加した。

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は13.4%で、前年に比べ0.2ポイント増加した。

表4 食肉卸売市場の豚肉の取引成立頭数の推移

区分		計	中央卸売市場	指定市場
実数	平. 17	2 180	907	1 273
	18	2 143	892	1 251
	19	2 183	918	1 265
対前年比	平. 17	95.2	93.7	96.4
	18	98.3	98.4	98.3
	19	101.9	102.9	101.1

単位 { 成立頭数: 千頭  
比率: %

注: 対前年比は、原数より算出している。

表5 豚肉の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

単位 { 頭数：千頭  
割合：%

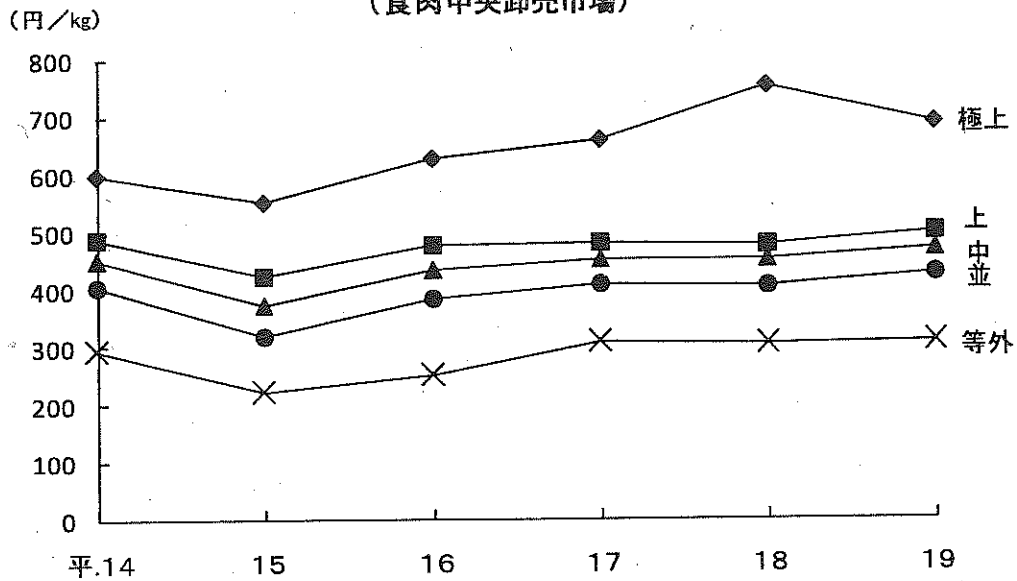
年次	全国と畜頭数	食肉卸売市場	
		取引成立頭数	割合
平. 17	16 243	2 180	13.4
18	16 210	2 143	13.2
19	16 268	2 183	13.4

注：割合は、原数より算出している。

イ 卸売価格の動向（1kg 当たり平均価格）（図4 参照）

食肉中央卸売市場における豚肉の規格別卸売価格は、「極上」が687円、「上」が498円、「中」が469円、「並」が424円、「等外」が305円で、「極上」は前年に比べ8.5%（64円）低下したものの、「上」、「中」、「並」及び「等外」は前年に比べそれぞれ4.6%（22円）、4.2%（19円）、5.2%（21円）、1.0%（3円）上昇した。

図4 豚肉の規格別卸売価格の推移  
（食肉中央卸売市場）



### 3 肉牛の概要

#### (1) 成牛の出荷状況 (図5・6・7、表6参照)

ア 成牛の出荷(と畜)頭数は119万9千頭で、米国産牛肉輸入停止措置の影響を受け17年以降減少傾向で推移しており、19年の後半には回復に向かったものの、前年に比べ0.8%(1万頭)減少した。

このうち、和牛は44万8千頭、乳牛は72万9千頭で前年に比べそれぞれ0.4%(1千頭)、1.5%(1万2千頭)減少した。その他の牛は2万2千頭で前年に比べ14.6%(3千頭)増加した。

成牛の種類別出荷頭数割合をみると、和牛が37.3%で前年に比べ0.1ポイントの増加、乳牛は60.8%で前年に比べ0.4ポイント減少した。

図5 成牛の種類別出荷(と畜)頭数の推移

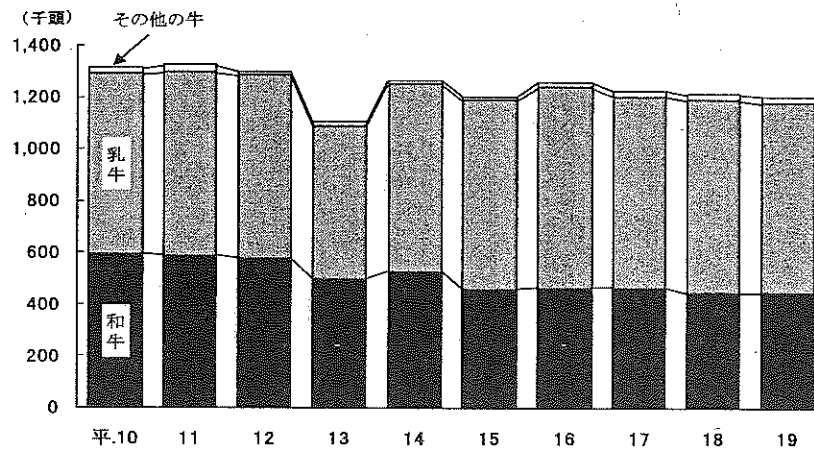


表6 成牛の種類別出荷(と畜)頭数の推移

年次		平.10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
実数	成牛計	1 310	1 322	1 297	1 103	1 263	1 202	1 256	1 221	1 209	1 199
	和牛	596	589	577	496	527	461	464	463	449	448
	乳牛	693	708	705	595	722	726	773	739	741	729
	その他の牛	22	25	15	13	14	14	18	19	19	22
対前年比	成牛計	98.5	100.9	98.1	85.1	114.4	95.2	104.5	97.2	99.0	99.2
	和牛	98.8	98.7	98.0	85.9	106.3	87.5	100.6	99.7	97.1	99.6
	乳牛	97.8	102.2	99.6	84.3	121.4	100.6	106.5	95.6	100.2	98.5
	その他の牛	113.7	117.2	59.3	86.2	106.1	104.2	129.1	102.5	102.4	114.6
構成比	成牛計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	和牛	45.5	44.5	44.5	44.9	41.7	38.4	37.0	37.9	37.2	37.3
	乳牛	52.9	53.6	54.4	53.9	57.2	60.4	61.6	60.5	61.2	60.8
	その他の牛	1.6	1.9	1.2	1.2	1.1	1.2	1.5	1.5	1.6	1.8

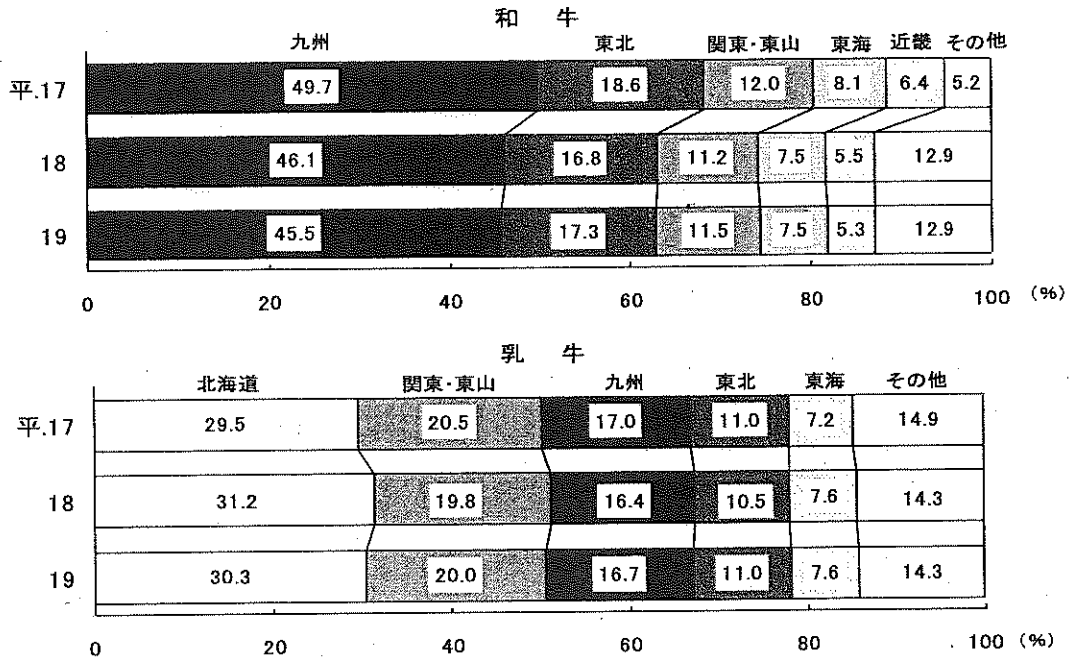
単位 { 実数：千頭  
比率：%

注：対前年比及び構成比は、原数より算出している。

イ 成牛の種類別出荷頭数の全国農業地域別割合をみると、和牛は、鹿児島、宮崎を中心とする九州が前年に比べ0.6ポイント減少し45.5%(20万4千頭)、宮城、岩手を中心とする東北及び栃木、茨城を中心とする関東・東山が前年に比べそれぞれ0.5ポイント、0.3ポイント増加し17.3%(7万7千頭)、11.5%(5万1千頭)となっており、この3地域を合わせた割合は全国の74.3%(33万3千頭)を占めている。

また、乳牛は、北海道が前年に比べ0.9ポイント減少し30.3%(22万1千頭)、栃木、群馬を中心とする関東・東山及び熊本、宮崎を中心とする九州が前年に比べそれぞれ0.2ポイント、0.3ポイント増加し20.0%(14万6千頭)、16.7%(12万2千頭)となっており、この3地域を合わせた割合は全国の67.0%(48万9千頭)を占めている。

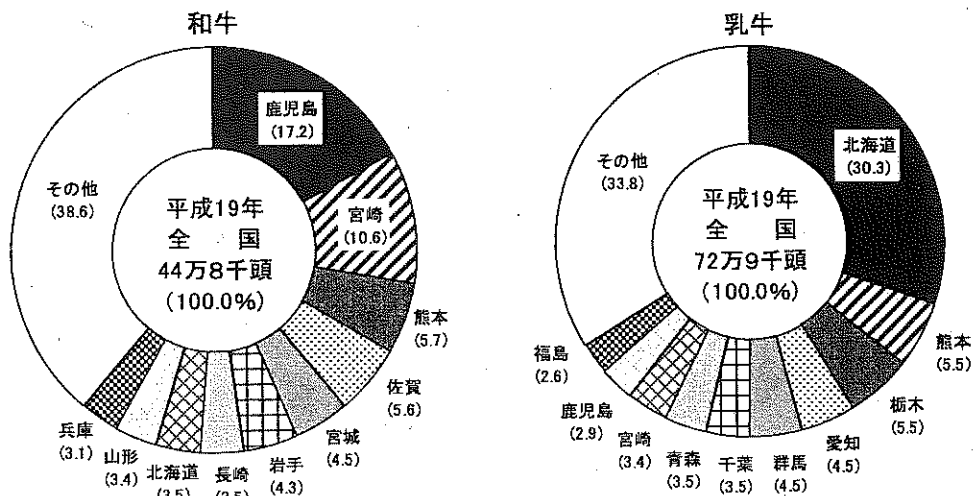
図6 成牛の種類別出荷頭数の全国農業地域別割合



ウ 成牛の種類別出荷頭数の都道府県別割合をみると、和牛は、鹿児島が17.2%(7万7千頭)と最も高く、次いで、宮崎が10.6%(4万7千頭)、熊本が5.7%(2万5千頭)となっている。

また、乳牛は、北海道が30.3%(22万1千頭)と最も高く、次いで、熊本と栃木が5.5%(4万頭)となっている。

図7 成牛の種類別出荷頭数の都道府県別割合



(2) 食肉卸売市場における牛肉の状況

ア 取引状況 (表7・8参照)

食肉卸売市場 (中央卸売市場 10、指定市場 19) における成牛の取引成立頭数は41万9千頭で、前年に比べ0.6%(2千頭)増加した。市場別では、中央卸売市場は31万2千頭で、前年に比べ1.3%(5千頭)増加し、指定市場は10万8千頭で、前年に比べ1.5%(1千頭)減少した。

畜種別では、和牛は18万8千頭で、前年に比べ0.6%(1千頭)減少し、乳牛は22万6千頭で、前年に比べ1.2%(3千頭)増加した。

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は35.0%で、前年に比べ0.5ポイント増加した。

表7 食肉卸売市場の成牛の取引成立頭数の推移

区分	計	市場別					畜種別	
		中央卸売市場		指定市場		和牛	乳牛	その他の牛
		成立頭数(千頭)	比率(%)	成立頭数(千頭)	比率(%)	成立頭数(千頭)	比率(%)	成立頭数(千頭)
実数	平. 17	424	313	111	193	226	5	
	18	417	307	109	189	223	4	
	19	419	312	108	188	226	5	
対前年比	平. 17	93.8	93.5	94.9	98.2	89.7	150.1	
	18	98.2	98.1	98.5	97.9	98.7	91.0	
	19	100.6	101.3	98.5	99.4	101.2	119.4	

注：対前年比は、原数より算出している。

表8 成牛の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

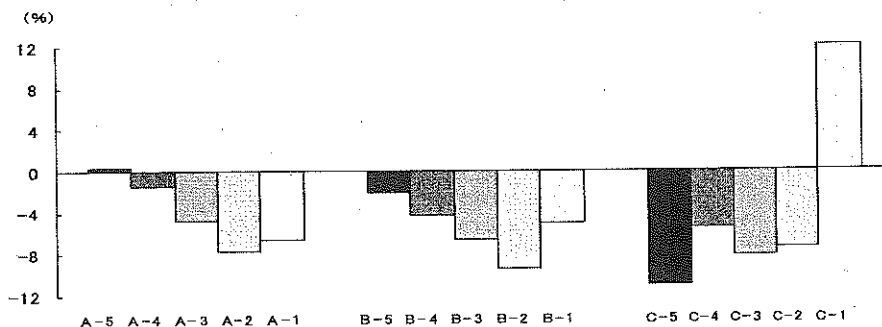
年次	全国と畜頭数	食肉卸売市場	
		成立頭数(千頭)	割合(%)
平. 17	1 221	424	34.7
18	1 209	417	34.5
19	1 199	419	35.0

注：割合は、原数より算出している。

イ 卸売価格の動向 (図8参照)

食肉卸売市場における牛肉の規格別卸売価格を対前年騰落率で見ると、「A-5」及び「C-1」規格は前年を上回ったものの、その他の規格は前年を下回った。

図8 成牛の規格別取引価格の対前年騰落率



## 第2部 鶏卵の流通

### 1 鶏卵の生産量 (図9、表9参照)

平成19年の鶏卵生産量は258万3千tで、平成16年以降、鳥インフルエンザの影響により低水準で推移していたが、平成19年はその影響が見られなかったこと等から、前年に比べ3.8%(9万6千t)増加した。

これを都道府県別割合で見ると、千葉が7.2%(18万5千t)と最も高く、次いで、茨城が7.0%(18万2千t)、鹿児島が6.5%(16万7千t)となっている。

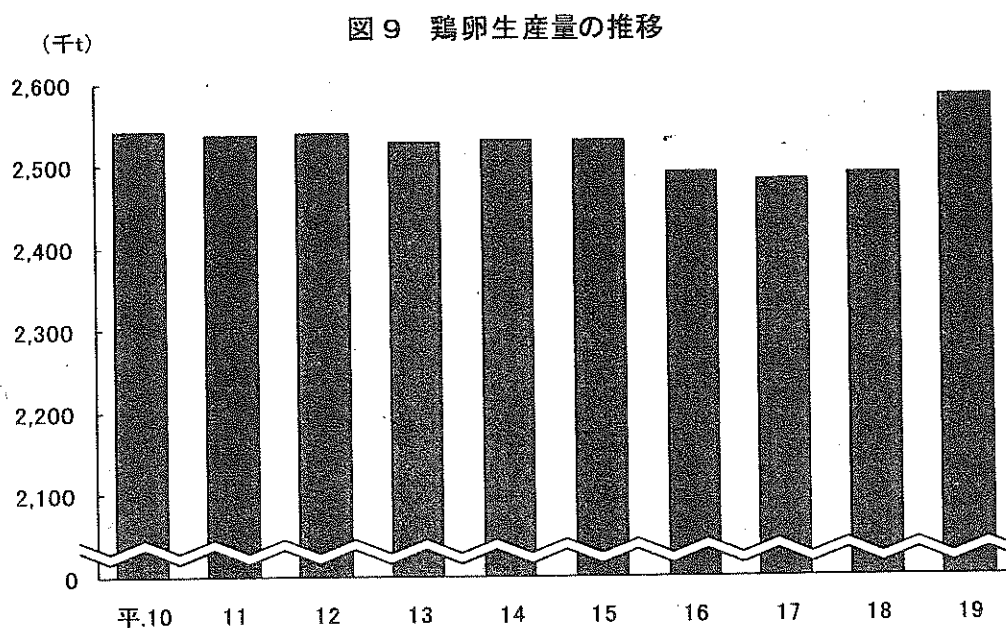


表9 鶏卵生産量 (全国及び上位10都道府県)

区 分	実 数			対 前 年 比			平.19 構成比
	平.17	18	19	平.17	18	19	
全 国	2 481	2 488	2 583	99.6	100.3	103.8	100.0
千 葉	160	159	185	100.2	99.6	116.4	7.2
茨 城	172	122	182	98.6	70.6	149.4	7.0
鹿 児 島	163	168	167	99.5	103.1	99.3	6.5
愛 知	134	134	137	103.7	99.8	102.9	5.3
広 島	114	116	116	102.6	101.3	100.4	4.5
岡 山	105	108	114	105.7	102.8	105.4	4.4
北 海 道	106	107	111	103.0	101.3	103.3	4.3
新 潟	90	96	100	107.8	107.2	103.7	3.9
青 森	87	89	90	99.0	102.1	100.7	3.5
岐 阜	82	86	84	110.7	105.3	98.0	3.3
そ の 他	1 268	1 303	1 297	97.2	102.7	99.6	50.2

注：1 四捨五入により計と内訳が一致しないことがある。

2 対前年比及び構成比は、原数より算出している。



2 鶏卵の出荷状況（表 10 参照）

鶏卵出荷量は、250万4千tで、前年に比べ3.9%（9万3千t）増加した。

これを全国農業地域別割合で見ると、千葉、茨城を中心とする関東・東山が最も多く、出荷量の24.3%（60万8千t）を占めている。次いで、鹿児島、福岡を中心とする九州が14.9%（37万2千t）となっている。

表10 鶏卵の全国農業地域別出荷量

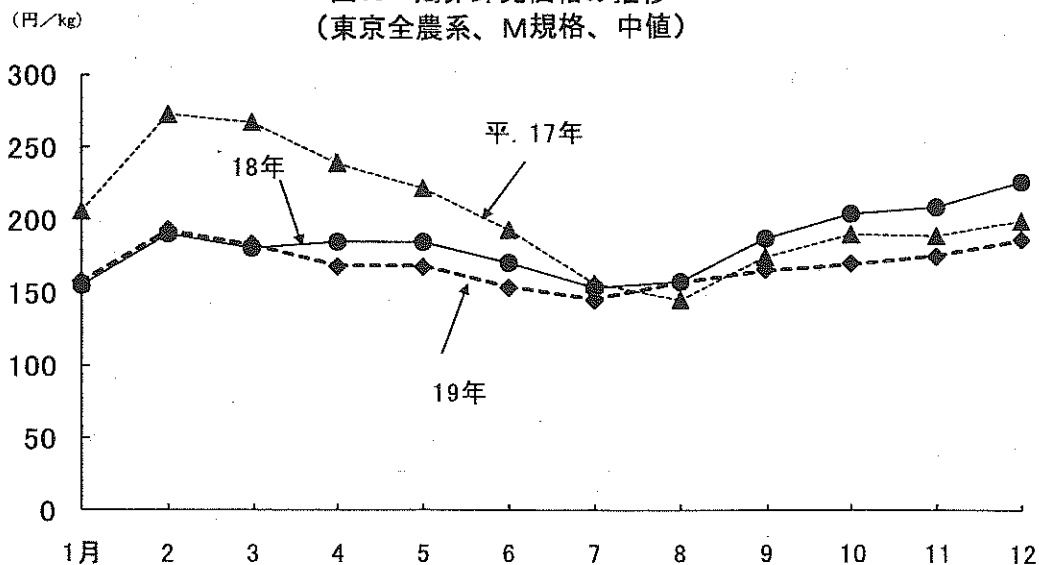
区 分	実 数			対 前 年 比			平.19 構成比
	平.17	18	19	平.17	18	19	
全 国	2 402	2 411	2 504	99.6	100.4	103.9	100.0
北 海 道	105	105	109	103.0	100.4	103.2	4.3
東 北	321	342	348	99.9	106.6	101.7	13.9
北 陸	138	144	148	102.5	104.6	103.0	5.9
関 東・東 山	576	532	608	99.0	92.4	114.3	24.3
東 海	336	339	343	104.1	101.1	101.1	13.7
近 畿	117	130	131	89.0	110.5	100.9	5.2
中 国	283	290	294	102.5	102.4	101.3	11.7
四 国	129	129	130	95.0	99.8	100.8	5.2
九 州	373	378	372	96.7	101.5	98.4	14.9
沖 縄	25	22	22	112.6	87.1	99.5	0.9

単位 { 生産量：千t  
比率：%

注：対前年比及び構成比は、原数より算出している。

(参考) 卸売価格（鶏卵市況情報）

図10 鶏卵卸売価格の推移  
（東京全農系、M規格、中値）



### 第3部 食鳥の流通

#### 1 食鳥の処理量 (表11 参照)

食鳥処理羽数は7億2,807万羽、処理重量は195万1,575tで、近年の国産志向の高まりにより、増加傾向で推移していることから、前年に比べそれぞれ1.0% (756万羽)、0.7% (1万4,214t)増加した。

表11 全国の食鳥処理量・製品生産量 (平成19年)

区分	処理量 (生体)				製品生産量					
	実数		対前年比 (%)		実数			対前年比 (%)		
	羽数	重量	羽数	重量	計	と体・ 中ぬき	解体品	計	と体・ 中ぬき	解体品
計	728 066	1 951 575	101.0	100.7	1 154 728	96 140	1 058 588	100.3	99.8	100.4
肉用若鶏	622 834	1 754 396	100.2	100.2	1 053 487	62 715	990 772	100.0	98.4	100.1
その他の肉用鶏	8 577	26 410	96.9	98.6	15 705	4 336	11 369	98.8	102.4	97.5
廃鶏	93 928	165 107	107.8	106.7	82 775	28 350	54 425	105.4	102.5	106.9
その他の食鳥	2 727	5 662	102.3	101.6	2 761	739	2 022	100.9	97.9	102.1

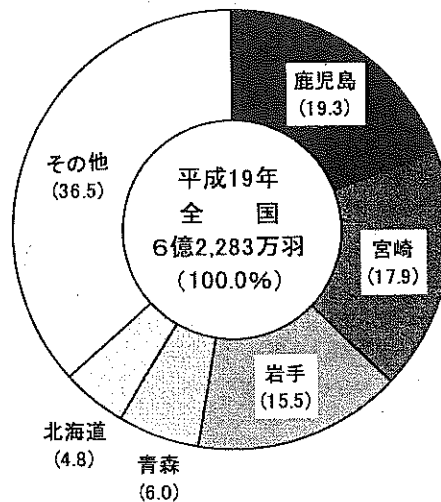
単位 { 羽 数:千羽  
重量・製品生産量: t

#### (1) 肉用若鶏 (表11、図11 参照)

ア 全国の処理羽数は6億2,283万羽、処理重量は175万4,396tで、前年に比べそれぞれ0.2% (101万羽)、0.2% (4,099t)増加した。

イ 都道府県別の出荷羽数割合をみると、鹿児島が19.3% (1億1,994万羽)と最も高く、次いで宮崎が17.9% (1億1,172万羽)、岩手が15.5% (9,650万羽)の順となっており、この3県で全国の52.7%を占めている。

図11 肉用若鶏の都道府県別出荷羽数割合

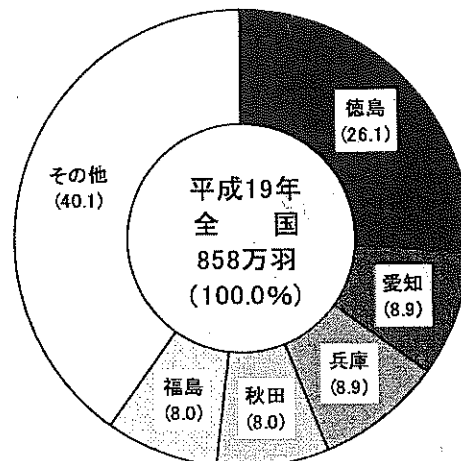


#### (2) その他の肉用鶏 (地鶏等) (表11、図12 参照)

ア 全国の処理羽数は858万羽、処理重量は2万6,410tで、前年に比べそれぞれ3.1% (27万羽)、1.4% (363t)減少した。

イ 都道府県別の出荷羽数割合をみると、徳島が26.1%（224万羽）と最も高く、次いで愛知が8.9%（76万羽）、兵庫が8.9%（76万羽）、秋田が8.0%（69万羽）、福島が8.0%（68万羽）となっており、この5県で全国の59.9%を占めている。

図12 その他の肉用鶏(地鶏等)の都道府県別出荷羽数割合



(3) 廃鶏（表 11 参照）

全国の処理羽数は9,393万羽、処理重量は16万5,107 tで前年に比べそれぞれ7.8%（676万羽）、6.7%（1万388t）増加した。

(4) その他の食鳥（表 11 参照）

全国の処理羽数は273万羽、処理重量は5,662 tで前年に比べそれぞれ2.3%（6万羽）、1.6%（90t）増加した。

2 製品生産量(と体・中ぬき及び解体品)（表 11 参照）

食鳥処理場における食鳥の製品生産量(と体・中ぬき及び解体品)は115万4,728 tで、前年に比べ0.3%（3,662t）増加した。

このうち、大部分を占める肉用若鶏をみると、製品生産量は105万3,487 tで、前年並み（404t減）となった。

これを処理別にみると、と体・中ぬきは6万2,715 tで、前年に比べ1.6%（996t）減少し、解体品は99万772 tで、前年に比べ0.1%（592t）増加した。

- 3 肉用若鶏の飼養（出荷）戸数・羽数（平成20年2月1日現在）（表12・13参照）
- (1) 平成20年2月1日現在の肉用若鶏の飼養戸数は2,456戸、飼養羽数は1億299万羽で、前年に比べそれぞれ4.9%（127戸）、2.2%（230万羽）減少した。
- 一方、1戸当たり飼養羽数は4万1,900羽で前年に比べ2.7%（1,100羽）増加した。

表12 肉用若鶏の飼養戸数・羽数及び1戸当たりの飼養羽数  
（2月1日現在・全国）

単位 { 戸数 : 戸  
羽数 : 千羽  
比率 : %

区 分		飼養戸数	飼養羽数	1戸当たり飼養羽数
実 数	平 .18	2 590	103 687	40.0
	19	2 583	105 287	40.8
	20	2 456	102 987	41.9
前 年 対 比	平 .18	97.7	101.4	103.6
	19	99.7	101.5	102.0
	20	95.1	97.8	102.7

- (2) 年間出荷戸数は2,991戸で前年に比べ2.4%（74戸）減少し、年間出荷羽数は6億2,283万羽で前年に比べ0.2%（101万羽）増加した。

これを年間出荷羽数規模別にみると、出荷戸数は20万羽以上の各階層で増加し、出荷羽数は30～50万羽及び50万羽以上の階層で増加した。

なお、1戸当たり出荷羽数は20万8千羽で、前年に比べ2.6%（5,300羽）増加した。

表13 肉用若鶏の年間出荷羽数規模別出荷戸数・出荷羽数の推移（平成19年）

単位 { 戸数 : 戸  
羽数 : 千羽  
比率 : %

区 分		計	5万羽未満	5～10	10～20	20～30	30～50	50万羽以上	
出 荷 戸 数	実 数	平. 17	3 120	673	572	1 049	404	252	170
		18	3 065	671	542	1 001	432	234	185
		19	2 991	617	519	970	438	253	194
	前 年 対 比	平. 17	96.3	21.6	18.3	33.6	12.9	8.1	5.4
		18	98.2	21.9	17.7	32.7	14.1	7.6	6.0
		19	97.6	92.0	95.8	96.9	101.4	108.1	104.9
出 荷 羽 数	実 数	平. 17	606 898	16 973	42 245	155 260	100 182	96 709	195 529
		18	621 820	16 732	42 294	148 567	110 175	92 582	211 470
		19	622 834	15 160	39 775	144 236	109 636	96 410	217 617
	前 年 対 比	平. 17	102.9	84.2	94.3	101.2	98.2	107.1	109.1
		18	102.5	98.6	100.1	95.7	110.0	95.7	108.2
		19	100.2	90.6	94.0	97.1	99.5	104.1	102.9
1 戸 当 た り 出 荷 羽 数	実 数	平. 17	194.5	25.2	73.9	148.0	248.0	383.8	1 150.2
		18	202.9	24.9	78.0	148.4	255.0	395.6	1 143.1
		19	208.2	24.6	76.6	148.7	250.3	381.1	1 121.7
	前 年 対 比	平. 17	106.8	97.3	101.2	101.5	99.7	97.7	100.7
		18	104.3	98.8	105.5	100.3	102.8	103.1	99.4
		19	102.6	98.8	98.2	100.2	98.2	96.3	98.1

4 食鳥処理場数 (表 14 参照)

食鳥を処理した全国の食鳥処理場数は 628 場で、前年に比べ 0.8%(5 処理場)減少した。

また、1 処理場当たり処理重量は 3,108 t で前年に比べ 1.5%(47 t)増加した。

表14 食鳥処理場数及び1処理場当たり処理重量(全国)

区 分		1) 食鳥処理場	食 鳥 の 種 類				
			肉用若鶏	その他の肉用鶏	産 鶏	その他の鳥	
処 理 場 数	実 数	平. 17	643	188	186	321	96
		18	633	185	174	313	94
		19	628	177	183	306	90
	対 前 年 比	平. 17	98.9	98.4	108.8	97.0	104.3
		18	98.4	98.4	93.5	97.5	97.9
		19	99.2	95.7	105.2	97.8	95.7
1 処 理 場 当 た り 処 理 重 量	実 数	平. 17	2 940	9 053	138	490	58
		18	3 061	9 461	154	494	59
		19	3 108	9 912	144	540	63
	対 前 年 比	平. 17	103.9	104.4	92.6	105.8	105.5
		18	104.1	104.5	111.6	100.8	101.7
		19	101.5	104.8	93.5	109.3	106.8

単位 { 処理場数:場  
処理重量:t  
比率:%

注:1) は食鳥を処理した実処理場数であり、1処理場で複数の処理を行っている場合があることから、食鳥の種類の数とは一致しない。

(参考) 卸売価格 (食鳥市況情報)

図13 プロイラー卸売価格  
(東京、中値、もも肉)の推移

